

Imabari Cultural Properties Map

いまばり文化財マップ 《朝倉・玉川地区》



infomation

【文化財について】
 今治市教育委員会事務局 文化振興課 ☎0898-36-1608
 朝倉支所地域教育課 ☎0898-56-2024
 玉川支所地域教育課 ☎0898-55-2701 今治市の文化施設

【観光情報について】
 今治地方観光情報センター ☎0898-36-1118
 今治地方観光協会 ☎0898-22-0909
 今治市観光課 ☎0898-36-1541 今治市の観光情報

玉川近代美術館 (徳生記念館)



郷土出身の実業家・故徳生忠常氏が収集した作品を中心に、昭和61(1986)年に開館。約420点を数える所蔵品は、黒田清輝、藤島武二から松本竣介、中村森(つね)ら近代洋画に大きな足跡を残した画家たちの作品から、郷土出身画家やピカソ、ルオー、ミロ、シャガールなど海外作品も所蔵しており、近代を彩る画家たちの作品を幅広く鑑賞することができる。

また、国宝「伊予国奈良原山経塚出土品」一括(奈良原神社所有)を収蔵し、年2回一般公開を行っている。これは昭和9(1934)年、玉川町内の檜原山頂にある奈良原神社境内で雨乞い祈禱のための清掃中、偶然発見された経塚からの出土品。平安時代末期の優れた工芸品であり、地域のかけがえのない宝となっている。



伊予国奈良原山経塚出土品



開館時間 午前9時から午後5時 **電話番号** 0898-55-2738

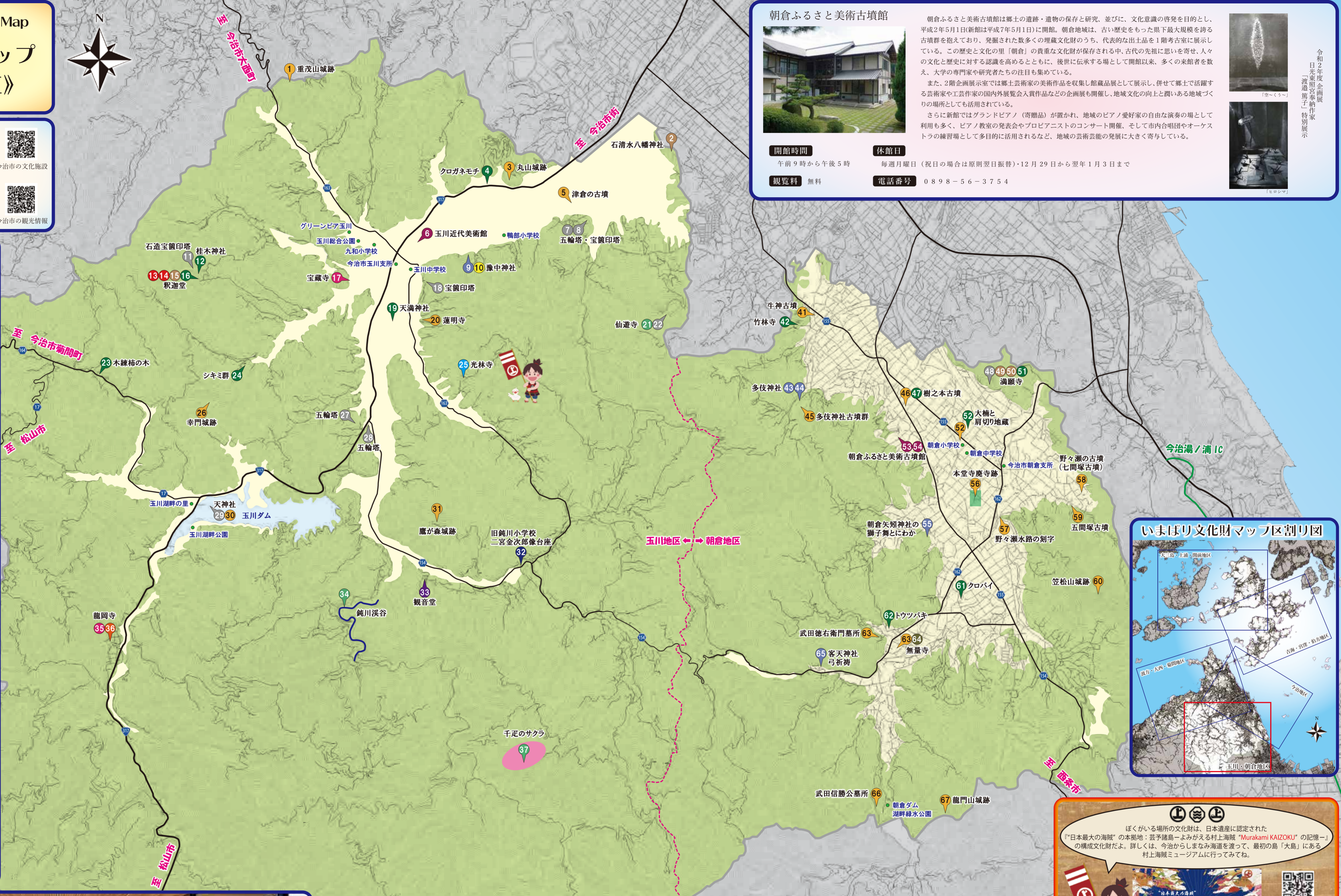
観覧料
 一般：520円 学生：260円
 高校生以下(18歳未満)無料 65歳以上：420円
 団体割引(20人以上)：2割引
 障がい者とその介助者1名無料

休館日
 毎週月曜日(祝日の場合は原則翌日振替)・12月29日から翌年1月3日まで

光林寺所蔵 指定文化財一覧



- 県指定有形文化財
 【石造美術】石造宝篋印塔 【絵画】絹本着色羅漢天師像
 市指定有形文化財
 【建造物】光林寺(仁王門) 【石造美術】宝篋印塔、五輪塔
 歴代山光林寺之図、摩尼山奈良原之図(摩尼山光林寺園、奈良原山園)
 【絵画】慶長明王画像、不動明王画像対幅、五大明王画像、釈迦三尊画像、弘法天師画像、金輪曼荼羅、地蔵尊画像、釈迦三尊十六尊神画像、孔雀明王画像、金剛界曼荼羅、胎藏界曼荼羅
 【彫刻】木造金剛力士立像 【土芸品】光林寺乗用籠 【古文書】光林寺文書 【歴史資料】木造扁額
 【典籍】摩尼山光林寺並びに奈良原山清浄光院蓮華寺略縁起及び元本、兵法虎之巻、虎之巻



朝倉ふるさと美術古墳館



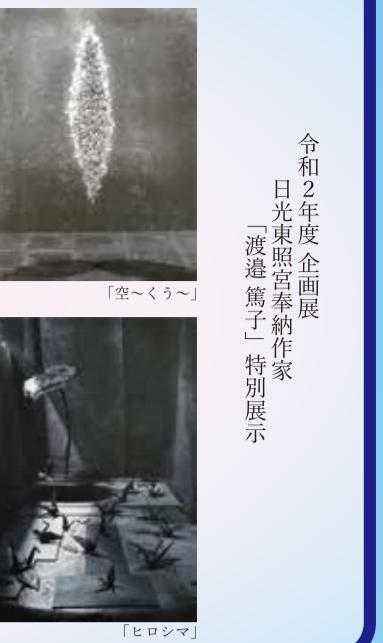
開館時間 午前9時から午後5時
観覧料 無料

休館日 毎週月曜日(祝日の場合は原則翌日振替)・12月29日から翌年1月3日まで
電話番号 0898-56-3754

朝倉ふるさと美術古墳館は郷土の遺跡・遺物の保存と研究、並びに、文化意識の啓発を目的とし、平成2年5月1日(新館は平成7年5月1日)に開館。朝倉地域は、古い歴史をもった県下最大規模を誇る古墳群を抱えており、発掘された数多くの埋蔵文化財のうち、代表的な出土品を1階考古室に展示している。この歴史と文化の里「朝倉」の貴重な文化財が保存される中、古代の先祖に思いを寄せ、人々の文化と歴史に対する認識を高めるとともに、後世に伝承する場として開館以来、多くの来館者を数え、大学の専門家や研究者たちの注目も集めている。

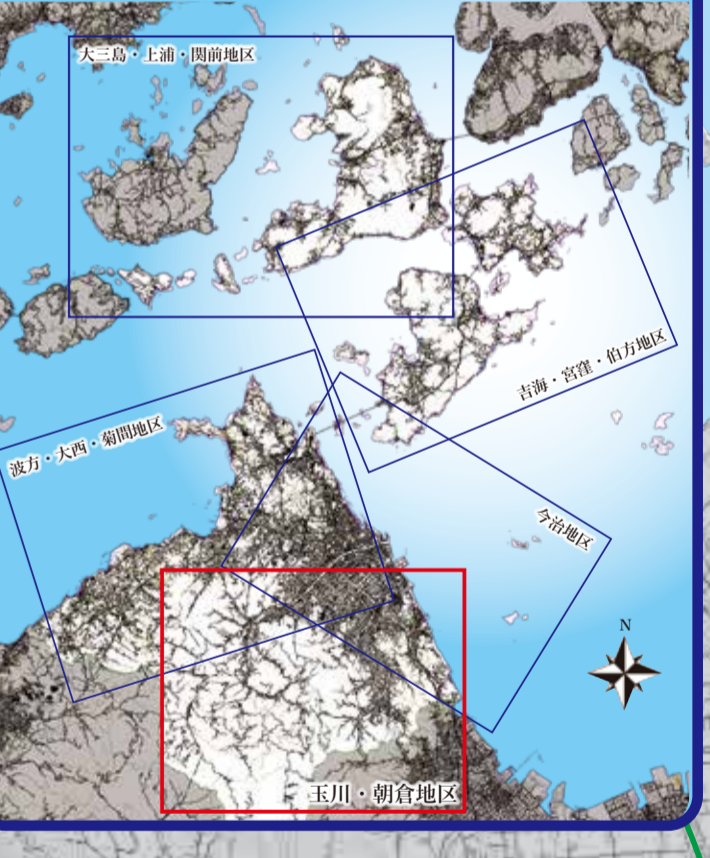
また、2階企画展示室では郷土芸術家の美術作品を収集し館蔵品展として展示し、併せて郷土で活躍する芸術家や工芸作家の国内外展覧会入賞作品などの企画展も開催し、地域文化の向上と潤いある地域づくりの場所としても活用されている。

さらに新館ではグランドピアノ(寄贈品)が置かれ、地域のピアノ愛好家の自由な演奏の場として利用も多く、ピアノ教室の発表会やプロピアニストのコンサート開催、そして市内合唱団やオーケストラの練習場として多目的に活用されるなど、地域の芸術芸能の発展に大きく寄与している。



令和2年度企画展
 日光東照宮奉納作家
 「波邊篋子」特別展示

いまばり文化財マップ区割り図



凡例

- 文化財 (Red dot icon)
- 国道 (Blue shield icon)
- 県道 (Blue hexagon icon)
- 道 (Black line icon)
- 路 (Grey line icon)

縮尺表示
 0 500 1000 1500 2000m

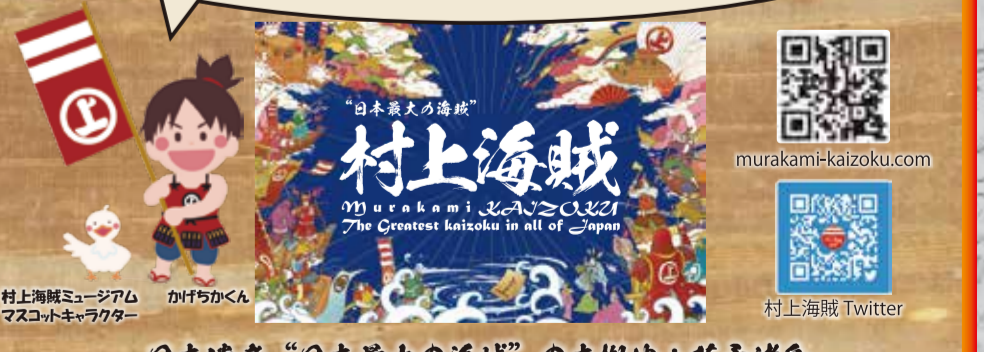
朝倉ダム湖畔緑水公園



開園時間 自由 **料金** 無料 **休日** 無し

村上上海賊

ほくがいの場所の文化財は、日本遺産に認定された『日本最大の海賊』の本拠地：芸予諸島・よみがえる村上上海賊「Murakami KAIZOKU」の記憶の一の構成文化財だ。詳しくは、今治からしまなみ海道を渡って、最初の島「大島」にある村上上海賊ミュージアムに行ってみて。



日本遺産「日本最大の海賊」の本拠地：芸予諸島
 —よみがえる村上上海賊「Murakami KAIZOKU」の記憶—
 戦国時代、宣教師ルイス・フロイスをして「日本最大の海賊」と言わしめた「村上上海賊」。理不尽に船を襲い、金品を略奪する海賊(ハイレーツ)とは対照的に、役に従い航海の安全を保証し、瀬戸内海の交易・流通の秩序を支える海上活動を生業とした。その本拠地「芸予諸島」には、活動拠点として築いた「海城群」、語り受け継がれてきた「伝来資料群」や「伝統文化」、新り崇められた「神社仏閣」、彼らも見たであろう多島美や白砂青松の景色「名勝」、芸予諸島の南北交流の礎ともいえる、越智式と呼ばれる宝篋印塔や五輪塔などの「石造物」など、海賊たちの記憶が色濃く残っている。今治・尾道をつなぐ芸予諸島をゆり、急流が渦巻くこの地の利を生かし、中世の瀬戸内海航路を支配した村上上海賊の生きた姿を現代において体感できる。

